

# 税理士の ひとりごと

No. 105

お天道様が見ている

税理士 齋藤明

今、顧問先の会議室。私の目の前では、税務署の調査官が黙々と総勘定元帳をめくっています。私はただそこに座っているだけで暇なので、自分のノートパソコンでこの原稿を書いているのです。

以前なら、私は税務調査と聞くとただそれだけで漠然と「イヤだな」という気持ちになったものです。しかし、近頃ではあまりそんなことを思わなくなりました。それは、私がフテブテしなくなったからという訳ではなく、ただ単に私の税務調査に臨むスタイルができてきたからなのだと思います。

そもそも、不安の本質って、何だか分からないことに対する怖れ<sup>レ</sup>なのだと思います。おそらく以前は、「調査官が来て、どんな指摘をされるのだろうか?」「とんでもないミスが発覚したら、社長に多額の税負担を強いられることになってしまうのではないだろうか?」なんて、ひとりで悶々と最悪の

シナリオを頭の中で肥大させながら不安に慄<sup>おの</sup>いていたのでしよう。

しかし、何度か税務調査を経験してみると、せいぜい期ズレであるとか、社長の個人的経費があつたとか、その程度の指摘が入るだけのことで、何の後ろめたさもない申告書を提出しているのであるならば、税務調査が来たって何も恐れることなどないのです。「何か文句あつたか?」とばかりに堂々していれば良いのです。

子供の頃、よくおじいちゃんなどから「お天道様が見ているぞ」なんて言われませんでしたか? そりゃ人間だもの、時には魔が差してつい「バレやしないよ」なんてコッソリ過ちを犯してしまいそうな気持ちになることだけであるでしょう。そんな時に、「ちよつと待てよ」と心にブレーキをかけられるのも、「お天道様が見ている」という戒めがちゃんと効いているからなのだと思います。

そうは言っても、現実にはシビア。細かなミスが指摘された場面などでは、まるで賭場でポーカーゲームに興じるギャンブラーのように様々な駆け引きを駆使しながら税務署と利害調整をしながらはなりません。そんな時には、まずは冷静になって、一歩引いて調査官の気持ちになって考えてみることにしています。

たとえばですが、調査官にはノルマがあつて少しでも多くの調査件数をこなしたいと思っっているはず。さらに言えば、もしも納税者側が修正申告に応じないと、税務署側として正当な理由をつけて更正処分を下さなくてはなりません。それには税務署長の決裁が必要となるので、「時間も手間もかかって面倒だからそれは避けたい」と思っっているはずなのです。そうであるならば、そこを逆手にとってこちらは税務調査対応を行なうのが正解ということになります。

あえてここで具体的な私のやり口を書くことはいたしません、いずれにしても私は、税務調査当日には「何の権限も持たないオジサンがただ資料収集に來ただけ」と割り切つて、ニコニコと協力的に対応をして気持ちよく帰つていただき、後日、税務署と調整する場面になつてから本気を出して張り切るスタイルにすることにしました。ですから今はこうやつて調査官の前で原稿を書いていられる、という訳なのです。

ただ、皆様に誤解していただきたくないのは、ここで私が言いたいことは、「税務調査対応には慣れや技術が必要だ」ということではなく、「お天道様が見ているのだから、悪いことをしないで堂々と生きた方が良いでしょう」ということなのです。落語の「芝浜」などは、まさにそういう話です。酒飲みの勝五郎が大金の入った財布を拾つてご機嫌で酒を飲んで寝ている間に女房がその

お金を奉行所に届け、酔いから醒めた勝五郎に「あれは夢だったのだ」とウソをつく。3年後、本当のことを女房は勝五郎に打ち明けるのですが、勝五郎は「こうして役人に捕まらず平和な正月を迎えられるのもお前のおかげだ」と良い気分になつて一杯酒でも飲もうと思うのですが、フト思いつくまじりこつ言うのです。「酒を飲むのはやめておこう。せつかくの良い気分がまた夢になつちまうといけねえからな」。



Akira Saito

川橋 奈土 生 40 昭  
士 橋 生 15 和  
務 事 年 平  
学 士 税 成  
法 士 理 出  
は 計 理 身  
は プロ 会 京  
乗 波 員 支  
れる 波 監 部  
か?」 http://blog.livedoor.jp/saiaki555/

【近況】バイクで一気山形まで走ってしまは爽  
した。クタクタに疲れましたが、気分が良い  
快。暑からず寒からずちょうど良い  
お出かけには最高の季節です。